

# 人間関係研究センターのすべての先達に感謝して

南山大学人文学部心理人間学科 楠本和彦

人間関係研究センターの紀要は私の知る限りでは、追悼特集を組んでいませんでした。現職でなくなられた坂中正義先生の追悼特集が『人間関係研究』の第21号で初めて組まれました。そして本号で津村俊充先生の追悼特集が組まれるこの機会に、人間関係研究センターのすべての先達に感謝する文章を投稿したいと私は考えました。

南山大学人間関係研究センターの前身である南山短期大学人間関係研究センターは、1977年に設立され、同センター紀要『人間関係』は1984年3月に創刊されています。先立つ1973年4月に南山短期大学人間関係科が開設されました。南山短期大学は英語科と人間関係科の2学科体制でしたので、私が南山短期大学に赴任した1990年代半ばの頃は、人間関係研究センターと人間関係科の構成員はほぼ同一でした。

『人間関係』創刊号(p.143)には3期分の研究員のお名前が挙がっています。この方々が人間関係研究センターや人間関係科の最初期に所属された方々と考えることができますが、このリストが全員を網羅しているかまでは確認できていません。このリストに掲載されている先生方は南山短期大学や南山大学でご一緒した先生方も多くいらっしゃいますが、どのような方だったのかお話を聞きする機会がなかった方もいらっしゃいます。その後、創刊号のリストには名前が載っていらっしゃらない先生方が新たに着任され、人間関係科や心理人間学科の教育、人間関係研究センターの講座や研究の発展に寄与してくださいました。人間関係研究センターの構成員の名前は『人間関係』や『人間関係研究』の各号末尾近くに掲載されておりますので、ご覧いただくことができます。

南山短期大学人間関係科は、非常に独創的な人間関係教育を日本で初めて行った高等教育機関だと聞いています。その教育に私はその最終盤に関わらせていただき、心理人間学科へと継承・発展していく過程に同行させていただきました。私が体験した人間関係科の教育、より広くは南山短期大学の教育は短い期間ではありましたが、とても印象に残っています。私の発想の基礎が形作られるいくつかあるステップの一つであったことは確信できます。

そのような独創的な人間関係教育を創始し、育てていただいた、人間関係研究センターのすべての先達に感謝しております。私ができることは僅かばかりだと思っておりますが、私ができることで、人間関係研究センターや心理人間学科や教育ファシリテーション専攻に少しでも役立つことがあれば、と願う次第です。本特集にあたって、再度、すべての先達への感謝を述べさせていただきます。ありがとうございました。